都弱視研

東京都弱視教育研究会
町田市本町田3350
発行人　望月伸悟
印刷　依田印刷㈱
第53巻　2号発行　R6.1.15

東京都弱視教育研究会の発展を願い

東京都立葛飾盲学校長　岩下桂郎

新型コロナウイルス感染症の法的分類が２類から５類への移行したことにより、対策が大幅に緩和され、教育活動を含む様々な制約が軽減されました。これにより、本研究会も各会員が参集して進めることが容易となり、研究会内での討議が一層活発に行われるようになったことと存じます。

現在、医療の変遷やインクルーシブ教育推進の成果により、視覚障害を有する小中学生の在籍者数は、特別支援学校に在籍する者が減少している一方で、通常の小中学校においては増加しています。

この状況に対して、「通常の学級に在籍する障害のある児童・生徒の支援の在り方に関する検討会議報告（文部科学省）」では、通常級で学ぶ子供たちへの校内支援体制の充実とともに、通級による指導の充実、特別支援学校のセンター的機能の充実を提言しています。

しかし、児童・生徒数の減少に伴う教職員の減少や教員志望者の減少等により、視覚障害に関する高い専門性を有する指導・支援体制を維持していくことは小中学校、特別支援学校において大きな教育課題です。

視覚障害教育は、発生頻度は低いものの視力に合わせた教材の提供や、弱視レンズの指導など高い専門性が求められます。魅力ある仕事ですが、子供たちを前に、悩みながら指導に取り組んでいる先生方も多いのではないかと思います。

視覚障害教育に関わる先輩の先生方が培ってきた視覚障害教育の知見を、新しい先生方に継承し、しっかり根拠をもって子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師を育てるためには、校内だけでなく、広い学びの場、ネットワークが必要です。

まさに、東京都弱視教育研究会は半世紀にわたる歴史の中で、一人一人の専門性を高めるだけでなく、視覚障害教育に関わる教員をつなぐ場としても重要な役割を果たしてきました。私自身も本研究会で多くのことを学び、そして先生方とつながることができたと思っています。

困難な状況ではありますが、都弱視研の存在意義を再確認し、未来に続く研究会として、今後も発展していくことを願っています。

令和５年７月３日（月）足立区立足立小学校

「弱視児童・生徒の自立活動に関する指導内容・方法の研究」

― 目と手の協応性を高める指導の在り方 ―

講師　筑波大学人間系障害科学域准教授　**佐　島　　毅** 先生

足立区教育委員会 統括指導主事　**谷　本　典　大** 先生

1　研究授業

対象児童　第３学年　１名

授業者　　澁谷　律子 主任教諭

　　毛利　涼夏 教諭

題材名　「作品展に飾る『なかよし村』をつくろう」

2　授業者自評

- 対象児童は就学前にハサミを使う経験があまりなかったので、１年次からハサミの操作練習を重ね、少しずつ技術を身に付けてきました。
- 対象児童が作業のトータルをイメージし、作りたいものを思い通りに描けるような支援を意識しました。
- 「もっとみんなはできる」と、自分と周りを比べて自己肯定感が上がらない児童には、成功体験を重ねるようにして心的な安定を図ることを目指しています。

3　質疑応答・協議

- 「チョキチョキカーブ」といったハサミの切り方を言語化していました。どのような効果をねらいとして行っているのですか。→楽しそうだからやってみたい、できそうだ、という気持ちをもたせ、言葉のリズムに合わせて操作できるように、リズミカルな言葉を使いました。

- ハサミの操作技術は、ハサミを使うだけでは身に付かず、握力や両手の協応性を高める手指のトレーニングを合わせて行うことで、ハサミを操作する力を付ける指導ができていました。
- 自分なりの切り方をしようとしている様子が見られました。身に付けさせたい切り方と両方やらせて比べることで、綺麗に切るにはどちらが良いのか気付くことができると思います。

4　指導・講評

- 児童が生き生きと活動できていました。信頼関係が築かれていることを感じました。
- コンパスやハサミなど道具の指導は計画的に行うことが大切です。
- 小学生は道具の時代と言えます。定規やコンパスなどの道具を上手く使えないと深く学べません。そのためにも、低学年でのハサミの学習は非常に重要です。
- 聴覚情報やリズムがあることで動作のイメージ化ができます。「チョキチョキ」といったオノマトペ（擬音語・擬態語）を使うのはとても有効です。
- 自分でできるようになるためには動作分析が必要となります。励ましの言葉を掛けながら、スモールステップを用意することでできるようになります。この授業では、少しずつ段階を準備して成功体験を積めるような工夫がなされていました。

（記録　文京盲学校　岩田　優希）

令和５年11月６日（月）練馬区立中村西小学校

「弱視児童・生徒の自立活動に関する指導内容・方法の研究」

― 目と手の協応性を高める指導の在り方 ―

講師　筑波大学人間系障害科学域准教授　**佐　島　　毅** 先生

１　研究授業

対象児童　第６学年　１名
授業者　　照屋　容子 主任教諭
　　中谷　瑠璃 教諭
題材名　「魚をたくさん泳がせよう」

２　授業者自評

対象児童は昨年、５年生の９月から入級し、それまで一切支援を受けてきませんでした。そのため、視覚補助具を使うことによってできることが増えてきました。これからも自己肯定感を高めるため、視覚補助具を活用する指導を続けていきたいと思います。

３　質疑応答・協議

- デスクスレダー（卓上糸通し）は本人が選んだ方法ですか。本校にもありますが、少し難しいです。→押すだけで針に糸が通るので、慣れればハンディ型の糸通しより慣れれば使いやすいです。
- 中学進学に向けて自分から援助依頼ができるようになるために、どのような指導をしていますか。→援助依頼する内容のカードを作り、そのカードを担任の先生に見せるようにしています。また、下級生の面倒を見る意識が出てきているので、かかわりを持たせるようにしています。

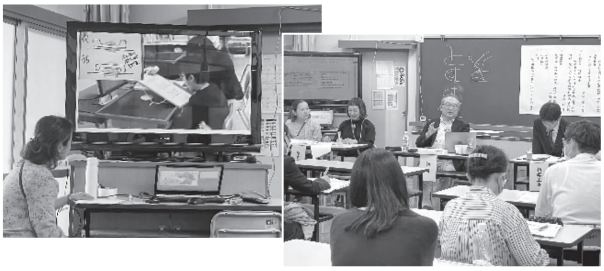
４　指導・講評

（１）研究授業について

- 児童が達成感を感じられるように、一つずつ昇れる階段を準備していく授業が素晴らしいです。自己肯定感を高めるような授業を目指すことは、児童の障害の有無や年齢にかかわらず、教師が常にもつべき基礎基本の姿勢です。
- 一つの学級の中で、自分の力が発揮できたり、周りから認められたりする場があると、学校生活全体がその子にとっての居場所となります。その場を作るための支援が大事です。

（２）目と手の協応性を高める指導

- 例えばひもを結ぶときや階段を下りるとき、目で見ることだけで動作をしているのではなく、様々な体の感覚をつかって動作しています。目を閉じていてもできるのは、体の感覚が覚えているからです。そのイメージを定着させるために、自立活動や教科活動の手立てを工夫するとよいと思います。
- 「動作」はいくつかのものが複合しています。それを分解して一つずつ吟味し、最終的に全部繋げて一連の動作になるという見方をすることが大事です。そのためには、動作を分析する手立てを整備するとよいでしょう。
- ハサミを使い始めるのは、通常は３歳くらいです。４歳になると自由にハサミを使い、簡単な工作を始めます。弱視児でも２歳くらいから目と手の協応性を高める指導を丁寧に始めれば、４歳くらいからハサミを使い始めることができるようになります。



（記録　立石中学校　尾科　正幸）

見　学　会

令和５年度の見学会が８月７日、「日本視覚障害者職能開発センター」にて行われました。常務理事である杉江勝憲氏からセンターの沿革や事業についてお話を伺った後、施設内を見学しました。

こちらは、見えない、見えづらい方々の「働きたい」「働き続けたい」という思いを支える、視覚障害者の総合就労支援施設です。主にパソコンを利用した事務職に挑戦する視覚障害者の、職能開発訓練を中心とした社会福祉事業を行っています。

そして、各視覚障害者支援機関、眼科、ハローワーク、視覚特別支援学校、当事者団体等と連携を取り、きめ細かくサポートしています。

日本視覚障害者職能開発センターの事業

１）就労継続支援B型

２）就労移行支援

・速記コース　・基礎コース　・応用コース

・ビジネスワークコース

３）就労定着支援

４）自立訓練

５）OA実務科

６）職場適応援助者（ジョブコーチ）支援

施設見学後、視覚障害者の事務系就労支援の取り組みについてのお話も伺いました。

事務的職種での就労は、2000年代以降、ICT技術の進歩とともに徐々に拡大傾向にありますが、事務系職種の職業訓練をしている施設はまだ少ないとのことでした。講義内容は、東京障害者職業能力開発校に準じたものを実施しており、業務に必要な幅広い技量を身に付けて、１年間で一般就労を目指しているとのことでした。

（記録　住吉小学校　薮内　公三）

視覚教育情報コーナー

近用弱視レンズ　広視野探索訓練
「時刻表で仮想旅行！」

近用弱視レンズを利用し、発見する楽しさを味わいながら訓練ができる活動です。

１　準備するもの

近用弱視レンズ　　時刻表（本）

２　やり方

（１）○○ツーリスト「夏の旅行計画」

①夏休みに家族で行きたい場所を決めます。（条件：時刻表掲載の列車を利用）

②近用弱視レンズを使用しながら時刻表掲載の日本地図を見て、目的地と列車（新幹線・特急など）を決めます。

③自宅を出発する時刻を決め、乗車駅と時刻、降車駅と時刻を時刻表から探して、メモを取ります。

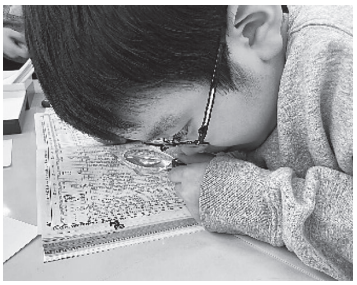
④旅行の行程に合わせメモを増やし、計画を完成させます。

※実際に家族で出かけることができれば、実践的な体験になります。

（２）時刻表で逃走中（鬼ごっこ）

①２人組になり、逃走者と鬼役を決めます。

②スタートとゲームオーバーの時刻を決めます。



③逃走者と鬼役のスタートの場所（駅）を決め、互いに知らせます。

④スタートしたら、それぞれが時刻表上で列車に乗車し、30分ごとに、現在地をメモして知らせ合います。（動かずにその場に居続けることもできます。）

⑤同時刻同場所に居たら鬼の勝ちです。ゲームオーバーの時刻まで逃げ切ったら逃走者の勝ちです。

※時刻や時間は、時刻表上のものです。

※動く範囲を決めてもよいです。

（例：JR東海の範囲内）

（足立小学校　澁谷　律子）